「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫
▼▲▼
◇◆◇　No.0779　◇◆◇　　24/03/06

【 「3 月は一年で一番動く月」、果たして今年は如何に!? 】

すでに終了している 2 月相場の月間変動幅は 4.98 円。月初 1 日の安値 145.90 円から半ばに掛けては好調な右肩上がりをたどったものの、151 円手前で上げ渋った。そののち月末に掛けてはほぼ横這いで推移している。
そんな「151 円の鬼門」は足もと 3 月も続いているようで、本稿執筆段階でいまだ超えられていない。リスクとしては引き続きドル高・円安方向に高いと考えているが、仮に 151 円などで上値を抑制され、前月相場と同じように「月間 5 円」動くとすれば、月内に 2 月初めと同じ 146 円レベルを目指し下落する可能性もありうることになる。

◎今年の 3 月金融市場は記録ラッシュか、「日経平均株価」はすでに史上最高値示現

前述した 2 月の月間変動幅 4.98 円は、昨年 10 月（4.42 円）以来の小変動だ。月間最高値である 150.88 円を付けた 2 月 13 日の翌日、神田財務官から「必要があればもっと適切な対応を取る」としたうえで、「24 時間 365 日いつも何か起こった時に対応できるような準備を備えている」ーーなどと非常に強い円安けん制発言が聞かれたことで、以降ドルは上げ渋った。3 月以降もドルは頭の重い展開が続いている。

そんな 2 月相場を受け 3 月相場は一体どう動くのか、恒例になっている過去の経験則を参考に以下で検証するが、まずは 1990 年以降昨年まで過去 34 年間の勝敗はと言うと、17 勝 17 敗。ちょうど互角の結果だった。
一般的には「3 月決算期末に向けたリパトリエーション」、つまり本邦勢による資金の国内還流など幾つかの需給要因・決算対策もあり円高有利との指摘も聞かれたが、データ的にはドル高とドル安、どちらが有利とも言えないようだ。

しかし、3 月相場には別に非常興味深い特徴がひとつあり、それは平均すると「一年で一番大きく動く月」であること。
典型例は月間 10.52 円で年間を通しダントツの変動を記録した 2020 年だが、翌 2021 年も 4.61 円の変動でやはり年間トップ。そして 2022 年は年間 2 位ながら変動幅は実に 10.45 円、昨 2023 年も変動幅 8.26 円でやはり年間 2 位を記録していた。なお、単に大きく動くというだけでなく、前述したように、それが 2020 年以降毎年と、かなり近年に集中して起こっているということも覚えておいて損はない気がしている。今年の 3 月相場も大相場は確実か!?

一方、過去の 3 月を歴史的な面で振り返ると、興味深い事象が 2 つうかがえる。
ひとつは、先にも記したように、日本企業の多くが決算期末にあたることが影響しているのか、「企業破綻」や「損失公表」といったニュースが数多くみられること。そしてもうひとつは、「為替や金融市場に関する、歴史トピックスも少なくない」ことだろう。

後者についてのみ典型事例を示せば、やはり 1933 年のルーズベルト大統領による「ニューディール政策」発表だろうが、ほかにも 1 ドル＝360 円の固定相場制導入を決定した 1949 年の「ドッジライン」発表、1953 年の日本株大暴落（通称「スターリン暴落」）などのほか、もう少し具体的なマーケット寄りの事象として、「NYダウが初めて 1 万ドル突破（1999 年）」、「ドル/円が 1995 年に記録した戦後最安値を更新（2011 年）*注；安値を更新しただけで、大底 75.57 円示現は同年 10 月*」ーーなどがすべて 3 月中に起こっている。

もちろん、こうしたことは毎年確実に起こるわけではないが、今週初め 4 日に「日経平均株価が史上初の 4 万円台示現」をするなど、実はすでに今年の 3 月も金融市場的な「記録」をひとつ塗り替えていた。また、暗号資産（仮想通貨）ビットコインも先日急騰。69000 ドル台を示現し、2021 年に記録した史上最高値を完全に視界内に捉えた動きとなっている。こちらも、月内に高値を更新する公算が極めて大きいと言えそうだ。
なお、そんな流れになかば便乗する格好でドル/円も、月内にドル高・円安が進行。2 月高値の 150.88 円を超えるだけでなく、昨年 11 月高値 151.92 円や 2022 年高値の 151.94 円を超えていくーー。つまりは、

「1990 年以来のドル高値示現」を達成する可能性もある、と考えるのはドル高論者によるいささか我田引水すぎる見方だろうか。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter